

あすなと高岡

第 3 号



輝く汗

(財)高岡市体育協会副会長

塩谷孝一

昭和四十七年に高岡市スポーツ少年団の本部長を拝命して、早いものでもう二十二年近くになる。

私は昔から何によらずスポーツ観戦が大好きだが、特に、汚れを知らない純真な少年たちが一心不乱にスポーツに取り組む姿をみていると、まるで童心にもどったように心が澄みわたるような快感を味わせてもらうことができる。

昔から「健全な精神は健全な肉体に宿る」といわれているが、まさに彼らの全身から吹き出る汗はこの世のどんな宝物にも勝る輝きを放ち、無限の可能性を全身に漲らせて躍動するその姿はどんなに洗練されたプロの選手たちのそれよりも美しく、私たち見る者にいつも限らない感動を与えてくれる。

私が本部長を拝命した頃は、少年団スポーツといってもまだまだ用具や施設が整っていない時代であり、もちろん服装などもバラバラというのが当たり前という状態であったが、そんな環境の中でスポーツ少年たちは自分たちで様々な工夫を凝らし、少しでも上達しようと毎日目を輝かせて美しい汗を流していたものだ。

近年、世の中が裕福になるにつれ、各チームとも揃いのユニフォームを設え、用具もひと昔前に比べ見違えるように豪華になり、私などからみても「今の子供たちは恵まれているなあ」と隔世の感を覚えるが、この恵まれた環境をフルに活かし、スポーツ少年団の輝かしい伝統を守り継ぐために、これからも美しい汗を流し続けてほしいと心から願っている。



新春武道稽古初め

平成5年度 役員研修会

●12月5日(日)
●雨晴温泉

研修会は昨年十二月五日(日)雨晴温泉において、加盟団体の役員、企業スポーツチームの代表の九十余名の出席のもと盛会のうちに開催した。

今回は本県で開催される『全国高校総体、二〇〇〇年国体に向けて』の主題で本協会が取り組むべき課題である選手強化、指導者の養成、企業チームの育成などについて、新保實氏(県教委、教育参事体育課長)、堺三徳氏(トナミ運輸バドミントンチーム監督)、稲垣俊夫氏(市教委、体育保健課長)よりご講義をいただいた。

新保氏は石川県に比べて強化費は多いが国体成績が悪いことを挙げた。金額ではなく優秀な指導者の確保が必要である。また、二〇〇〇年国体には現在の小学五・六年と中・高校生の優秀選手を育成することや成年層の強化のために企業チーム強化指定を今後増やすことにより、選手層を厚くすることが必要である。さらに高岡市に望みたいこととして、小学校に体育連盟『小体連』の組織をつくる。県体二部競技での一般・中学の各部での優勝をめざす。二〇〇〇年国体での本市開催種目の強化を図る。競技団体における指導者の若返りに期待するなどこれからの指針となる具体的な方策の提言をいただいた。



チームとともに、本県における代表的な企業チームであるトナミ運輸バドミントンチーム育成にあたっての会社の支援体制や選手一人ひとりに対する気くばりなど企業チームとしての苦労話や努力について述べられた。

稲垣氏は平成六年度の高岡市の体育行政の主な施策として、全国高校総体の開催施設としての『高岡スポーツコア』の完成。市民スポーツ振興のための『生涯スポーツプラン』の作成などについて説明された。

各講師からの長時間にわたるご講義に参加者一同熱心に受講され意義のある研修であった。

スポ・トレ研修会に

参加して

今井 創

生涯体育・生涯スポーツが強くさげられる中、競技スポーツを指導する側の立場から今一度、正しい指導のあり方をぜひと思い、この研修会に参加しました。

今回は「トレーニング処方」と

題して、特に小・中学生の発達段階に応じた効果的なトレーニングの仕方とその指導法についてが主な内容でした。

「子供は単に大人のミニチュアではない、……形態的にも機能的にもどんな変化し、その変化の仕方にも個人差がある……だからこそ適切なトレーニングの仕方を理解した上で……」という考え方を再認識することができたと同時に、より具体的な指導法も知ることができました。

今、子供たちは「勝ちたい、もっと強くなりたい」と願っています。安全でかつ効果的なトレーニングこそが、その願いを達成させてくれる不可欠の条件であると言えるのではないのでしょうか。



第46回市民体育大会冬季大会

◆スキー

二月六日に山田村牛岳温泉スキー場において第四十六回高岡市民総合体育大会スキー競技会が行われました。

スキー競技会は年々愛好者の増加に伴い、今回は百六十一名のエントリーがあり、当日は晴天に恵まれ、参加者は牛岳山頂から、距離八百五十m、標高差約百mのロングコースを各々の技術に応じた華麗なシユプールで旗門の間をぬうように滑り降りていました。



◆スケート



スケート連盟が体協に新加盟してアイススケート・アイスホッケー競技会が十二月十五日と十二月二十三日に高岡スケートセンター等で始めて開催されました。国体選手から小学生まで多数参加して和やかな内に厳しいレースや華麗なスケート競技が行われました。比較的手軽に出来る競技であるから、底辺を拡大してより多くの選手が育って欲しいものです。

間近にせまった全国高校総体

高岡市で開催する競技の期日・会場と期待の地元勢を紹介します。

△ボクシング 8/158/7

『富山県産業創造センター』

昨年度より強化選手を選び、本格的に強化に臨んでおり、競技人口増と競技水準の向上に明るい兆しが見える。選手は、上市高が主力であり入賞が期待される。

△サッカー 8/158/7

『高岡スポーツコア』サッカー場

(富山市との共同開催)

競技水準は、富山第一を中心に富山市が高く、高岡勢は最近低迷状態であったが、昨年の全国大会予選で伏木高がベスト4に入り、伝統校の高岡工芸と共に大会出場への期待が大きい。

△水泳 8/1758/20

『富山県営高岡プール』(仮称)

富山県の高校水泳部員数は、現在男女で二〇〇名に満たず、プール保有も皆無に近い条件のなかで、選手の育成や強化はスイミングクラブや県水連が行っている。大会に出場するには、北信越で三位以内が標準記録突破の厳しい条件であるが、高岡第一の山本・奥村選手(五〇・一〇〇mフリー)の人賞が期待される。

△バドミントン 8/158/6

『高岡市民体育館 他五会場』

協会や実業団チームの指導や県外有力校との交流を通して強化を図っており、バドミントンの盛んなところでもあり、市民の関心も高くその活躍が期待される。高岡勢では、中部日本大会単で優勝した神谷仁士選手を中心とした高岡工芸、全日本ジュニアで三位、東四国国体で活躍した山田潤子選手を擁する高岡女子の入賞が期待される。

△ソフトテニス 女子 8/158/3

男子 8/558/7

『高岡スポーツコア』テニスコート場

男女とも全国レベルより低いのが、この大会を目標に強化を積み重ね、着実にレベルアップが見られる。男子では、小杉高・高岡工芸が、女子では、昨年の北信越で一・二年生を中心に三位入賞した高岡女子の期待が大きい。

△自転車 8/658/7

『高岡市・氷見市周回コース』

(氷見市との共同開催)

数年前より高岡第一・向陵・氷見の三校を中心に強化が図られており、活躍が期待される。

第二回スポーツ医・科学

シンポジウム開催

開催日時 十一月十九日(金)

開催場所 富山県高岡文化ホール

テーマ 「発達段階に応じた

トレーニング法」

パネラー

◎山田 均 (高岡市民病院整形外科

科第一部長・スポーツドクター)

◎炭谷 哲二 (高岡市民病院内科第

二部長・循環器専門医)

◎北村 潔和 (富山大学教育学部助

教授・運動生理学)

◎別所 拓 (高岡龍谷高校女子バ

レーボール部顧問)

◎木村 勉 (高岡西部中学校陸上

競技部顧問)

◎姫野 光昭 (作道サッカークラブ

監督)

司会

◎藏 耕三 (高岡市体協強化部

長・北陸工業専門学校教授)

第一回に引き続き、多数の聴講者が参加された。パネラーから貴重な意見が発表され、最後に活発な質疑応答がなされた。その内容の要点を紙上再録致しますので、今後の指導の参考にしてください。

木村氏：指導上三点を注意する。

一、中学生は発達途上のため部分的に偏らないで全身的なトレーニングを行う。

二、トレーニングスケジュールの工夫をして、一年間を試合期・準備期・鍛錬期に分けて能率的に行う。

三、集中力を高める。特に大切なトレーニングは最初に行う。

別所氏：バレーボールの選手はボールのみの扱いで、基礎体力が不足していたため走力トレーニングを取り入れた。しかし、練習で疲労骨折等をおこす選手が現れた。原因は、食事の不規則による栄養不足が考えられたので、合宿生活を取り入れカロリー計算をして与えると、体ができた。練習は(月・水)休みとし、週二回接骨医にトレーナーをやつてもらっている。

姫野氏：少年・高校・一般まで一貫した指導態勢がない。勝つための指導は、選手を育てるためにはマイナスマ面が多い。勝つことの喜びも重要であるが、スポーツすることの楽しさを教えることがより重要である。

山田氏：身体が発達する部位は時期

加盟団体紹介④

高岡市ソフトボール協会

ソフトボール競技は、終戦当時米軍により我が国にもたらされ、以来新しい野球型スポーツとして、広場さえあればどこでも気軽にできることから人気もあり、全国的にめざましい普及をみました。

富山県ソフトボール協会が設立されたのが昭和二十四年。この年開催された第二回県民体育大会から正式種目として取り入れられ、県内にも愛好者が増え、チーム作りと共に支部協会設立へと普及発展をしてきた。高岡市では審判員の養成等組織作りの諸準備に努め、吉居正俊氏を初代会長として、昭和四十五年に協会を設立し十数年に大会が華々しく行われスタートしたのである。



発足当時、財政面や審判のできる人が少なく、事業運営に苦労が多かったという。設立から二十五年たったが、今なお様々な課題を残しており、競技スポーツをめざすチーム、

レクリエーションとして楽しむチームなど年々増加が見られ、大会数も多くなっており、それに伴い優秀な選手や公認審判員の養成と確保が急務である。また競技力の向上をめざすには、専用球場の整備が必要と思われる。

一九九六年のオリンピック(アトランタ大会)より正式種目となり、ソフトボールに対する関心や期待も大きくなるものと考えられるが、富山県でも本年開催される全国高校総体、二〇〇〇年国体に向けて、より一層の競技レベルを高めなければなりません。そのためには、小学生・中学生を中心に競技人口を増やし、一貫した指導体制のもと選手強化を図る必要がある。

幸いにも昨年の東四国国体で、富山県の少年女子チームの投手として三位に導いた高岡第一高校の高多選手の活躍は、今後の本市のジュニア選手にとって大きな目標となるものであり、ソフトボール競技の振興に弾みをもたらしものと確信するものです。

成功させよう！

成功させよう！

によって違う。神経系は、幼児期・小学生期に。呼吸・循環器系は、中学生期に。筋肉・骨格は、中学・高校生期であるから、練習の重点は五、十才は動作の習得を、中学生は持久力を、中学・高校生は筋力トレーニングをすると良い。しかし、ジュニア期は発育期であり過度の練習は障害が生じやすい。練習量は、週に十四時間以内にとめたい。特に肘・膝などの関節部に注意して、練習時はウォーミングアップとともにクーリングダウンを多めに行って欲しい。

炭谷氏：ATP（筋肉を動かすエネルギー）は三種類に分けられ、無酸素系が数十秒、乳酸系が数分、有酸素系が数時間持続できる。しかし、小児期は個人差が大きく、セルフコントロールが未熟で疲労に対する認識が薄いため、指導者は注意を要する。内科的スポーツ障害としては、脱水・熱中症・貧血がある。最近話題の突然死は予測困難のため指導者は心肺蘇生術を習得して欲しい。

北村氏：発育曲線は体格↓肉体↓機能の順でできる。子供には発育のバラツキが四年ぐらいある。技術の習得は小学六年時までに十分できる。持久力的トレーニングは十四〜十六才がピークであり、筋力トレーニングは二十〜三十才がピークである。ジュニアは普段の遊びで、筋力・持

久力がつく。また、トレーニングすることによって運動能力は高まる。さらに、練習中等には適宜水分を補給させる。体温より低い水を飲ませるにより体温を下げる。それにより疲労回復して集中力がでる。

【質疑応答】

Q 水分の補給は

A 普通の水でも良い。また不足するミネラル（ナトリウム・カルシウム・糖分等）を添加した飲料でも良い。

Q 毎日三時間半の練習時間は

A オーバーユースの恐れがある。徳島県の少年野球で週三日一時間半の練習で、四年後に県大会で準優勝した事例がある。

Q 障害の早期発見と対処は

A 早く訴えさせる環境を作る。例えば練習ノートに痛み等を記入させる。痛みが同じ動作で同じ箇所にかかる場合は、障害の疑いがある。肘・肩の痛みが初期の段階では、二〜三日の休養で回復する。

Q 疲労骨接を防ぐためには

A やりすぎない。筋力を高める。衝撃を吸収しない状態になった時は止める。

Q 練習の適切な量は

A フォームが崩れない状態でできる範囲である。あくまでも個人差があることに注意する。

加盟団体紹介⑤

高岡市ソフトテニス連盟

昭和三十三年の第十三回国民体育大会を『前田利長公』ゆかりの前田コートで開催して以来、前田コートは、『軟庭のメッカ』として中学生・高校生のあこがれの場であり、今日まで当連盟とともに富山県の軟式庭球をリードしてきた。その間に、時代は昭和から平成に、軟式庭球はソフトテニスへと名前を変え、そして今年のインターハイを期に、ソフトテニスの中心は前田コートから建設中のスポーツコアへと移行し、ルールの変更とともに、新たな歴史の一頁を飾ろうとしている。

その中で、競技力の向上と競技人口の拡大、指導者の養成、ジュニア層の育成強化等、二〇〇〇年国体の成功は勿論のこと将来を睨んでの指針・土台づくりは、当連盟に課せられた大きな命題である。幸いにも数年前より県体協並びに市体協のジュニア選手育成強化事業の助成を受け、小・中学生の強化を始め指導者の資質の向上に鋭意努力しているが、この努力を無

にすることなく全国に羽ばたくためには、現在ある高岡市内の小中学生を対象とした三つのソフトテニスクラブを核に、将来的には各小学校対抗の大会が開けるような組織づくりと、小・中・高一貫した指導体制の確立が急務であり、連盟挙げて取り組んで行きたい。

そして、今後の当連盟を語る上で忘れてはならないのが、昨年三月に結成された北陸三県では初の女子ソフトテニス実業団チーム「タカギセイコーフェアリーズ」の存在である。二〇〇〇年国体の成功への原動力は勿論のこと、高岡市スポーツ界の『顔』、さらにはソフトテニスに懸ける子供達の

『あこがれ』『目標』、そして当連盟の『誇り』として、地域社会にとけ込みながら日本一を目指して欲しいと切に期待してやまない。



翔たけ ホープ!!



■サッカー

荒谷 弘樹

県内から初のJリーグ（浦和レッズ）入りの富山第一高校のサッカーゴールキーパーの荒谷弘樹選手にこれまでのサッカーについて語ってもらった。

サッカーを始めたきっかけは、「友人に誘われて」と言うが、野村小学校四年から野村FCに入り、炭谷監督に厳しい指導を受けゴールキーパーの第一歩を踏み出した。

芳野中学校時代には、身長が一八〇cmを越えて、現・高岡西部中学校の西村先生の指導を受け、北信越選抜で全国大会の出場、市体や県体等で優勝を成し遂げた。

今日、富山第一高校の長峰監督のもとで指導を受け、昨年夏に静岡県で開催されたジュニアの日本ユース代表となり、世界のチームと始めて対戦した。

長身を生かした空中戦には自信があるが、状況判断は、まだまだ未熟なため基礎を十分に学んで、三、四年後には、トップチーム入りを目指したいと言う。

これまで、良き指導者に恵まれて今日の自分があり、将来世話になった人達に恩返しのできる選手になりたいと言う。

浦和レッズのキャンプも近いが、「先輩からプロの雰囲気とスピードを最初に吸収したい」と話す言葉からも、高校生離れをした落ち着きと自信が感じられた。



■ソフトボール

高 多 和 美

昨秋の東四国国体秋季大会において、ソフトボール少年女子で、二年連続三位入賞の原動力となった好投手。一六五cmの長身と強い足腰からのスピードボールが繰り出され、堀江麻希捕手（高一高二）との名コンビで国体本戦でノーヒットノーランと完全試合という快挙を成し遂げ大活躍された高多和美投手に、高島学監督を交えて中学・高校の体験談や今後の抱負等について語ってもらった。

ソフトボールの盛んな戸出中学校に入學し、陸上やバスケットボールに興味があったがアジア大会出場の藤森先生と出会い、大器としてのスタートがなされた。

技術面や体力面さらに持ち前のセンスでピッチャーで四番という自らチームの中心選手となり、富山県を代表する選手に育ったが、「本当は、あまり練習が好きではないが、勝つことが喜びである」と言う現代っ子らしい言葉も聞けた。

今春、滋賀県の日本精工に就職する。ソフトボール日本リーグ一部に所属する力のある企業チームである。

県内より初めて日本リーグ入りするが、今後は一生懸命に努力し活躍できる選手になって、後輩を引っ張りたいと意欲満々で、非常に頼もしい限りである。

今回の取材をしての印象は、恵まれた環境と指導者のもとで育った高多選手、まだまだ未知の力を秘めているように感じた。



■バドミントン

進 藤 範 子

昨秋の東四国国体秋季大会において、地元香川県に勝ち第三位となる大健闘を見せた高岡女子高校の進藤範子選手にこれまでのバドミントンについて語ってもらった。

バドミントンを始めたきっかけは、南条小学校五年の時、南条ジュニアバドミントン部に入部したことである。特に指導者はいなかったが、南条クラブの大人の人と練習をして、六年の時には、市体で優勝するほどのセンスがあった。

また、南星中学時代は、新田（旧姓：広瀬）公代先生との出会いで指導を受けた。さらにジュニア対策で尽力されていた清水芳隆監督（高岡女子高教諭）のもとで指導を受けながら、高岡女子高に進み、今日にいたった。

恵まれた身長（一六七cm）からの角度のあるスマッシュがセールスポイントであるが、前方の処理が少し苦手だと言う。先頃中国選手との交歓試合を経験したが、スマッシュの速さでレベルの違いを感じさせられたと言う。

今春、日本体育大学に進学するが、「インカレチャンピオンになり、将来は教員になりたい」と言う大きな目標に向かっていく。

後輩には、今年のインターハイで自分達が成し得なかったベスト8以上を目指してほしいと言う。

これまで、お世話になった人やダブルスのパートナーであり、ライバルであった堺谷選手やチームメイトに感謝の気持ちでいっぱいとのことである。

《スポーツドクター・アドバイス・第三回》

高岡市のバドミントン選手における

けが(外傷)と故障(障害)について

高岡市民病院整形外科

山 田 均

バドミントンは高岡市において、最も盛んでかつ競技レベルの高いスポーツの一つである。しかし、残念なことに、スポーツ外傷・障害の頻度も高く、このために競技生活を断念した選手も少なくない。

そこで一昨年、バドミントン競技選手におけるスポーツ外傷・障害の実態把握と予防対策を目的として、市教育委員会の協力のもとアンケート調査を実施した。対象は中学生以上の競技選手であり、四四一名より回答を得た。男性一九一名、女性二五〇名であり、年齢は一三才より五七才、平均二二・五才であった。

回答者の所属は中学生二二九名、高校生三七名、社会人一六一名、日本リーグ一四名であった。週における練習時間は中学生一四・六時間、高校生二二・九時間、社会人三・二時間、日本リーグ二一・四時間であった。男女とも中学から高校の間に練習時間の大幅な増

加がみられた。

外傷経験は九〇名、二〇・四％であり、経験年数が増え、競技力が向上するほど頻度が増加していた。

外傷部位は足首がもっとも多く、以下大腿部、膝の順であり、内訳は捻挫、肉離れ等が多かった。少数例ではあるが、シャトルが眼に当たり、眼底出血をきたした例もみられた。至近距離で、スピードの早いシャトルを扱う本競技において極めて危険な外傷と考えられた。障害経験は七一名、十六・一％にみられた。九七部位に障害がみられ、重複した障害を認める選手が多かった。

障害の発生頻度を所属別にみると、高校女子と日本リーグ女子に高かった。高校生の場合、練習時間は男女ほぼ同じでも、障害の発生は女子選手に多かった。その原因として、女子においては男子に比べ関節が柔軟であること、基礎体力が不足していることが考えら

れた。

障害は肩、肘の腱鞘炎、腰痛、下肢疲労骨折、膝靭帯炎などが多くみられた。

下肢の外傷・障害側と利き手との関係をみると、外傷は利き手側に多い傾向が、障害では膝靭帯炎、下腿骨膜炎などは利き手側に多く、足の疲労骨折は両側に認められた。これらの外傷・障害と、本競技特有の動きとの関係をまとめると図のようになる。体をそらしてク



リアー、スマッシュを打つ際の腰痛。利き手側の肩・肘

腱鞘炎、打った後に反対側に着地した時の

足関節捻挫、膝靭帯損傷、足疲労骨折が多くみられた。また利き手と同側の下肢を踏み込むレシーブ動作のくりかえしにより、膝靭帯炎、半月板損傷、下腿骨膜炎、下肢疲労骨折などの発生が認められた。

こうした外傷・障害の発生には様々な要因が考えられるが、とくに女子においては基礎体力不足が、男子および発育期の選手においては、下肢の筋肉の弾力性の低下が原因となっているようであった。

以上の結果により、練習の基本プログラムの中に、筋力トレーニングをとり入れること、練習終了時にストレッチ体操を含めた筋肉のケアをきちんと行うことが特に重要と思われた。



ジュニア育成強化 《スキー》

昭和六十三年より小、中学生を対象としたジュニアスキー教室の中から優秀な選手をピックアップして養成をおこなっています。

スキー場のある山麓のクラブや学校のクラブのようにシーズン中は毎日滑走練習ができません。

このため夏季合宿やシーズン直前の合宿（立山、北海道、長野）に重点をおき、効率的なトレーニングに努めています。

小、中一貫した体制で指導をおこなっていますが、残念ながら市内の中学校にはスキークラブがありません。せっかく育った選手も他のクラブに入部してしまいます。

このことから、選手の意見を尊重しながら「スキーが好きだから自分自身のためにスキーをしている」ことを感じさせる指導をおこなっています。

なお、学校や父母の方々のご協力を得て冬期間は、優先的にスキー活動に参加させています。

今年度の県中学校選手権にお



て回転一位、大回転四位の西海（高陵）や大回転二位の野上（芳野）の活躍が期待されています。

トレーニングバーンの確保や専門コーチの不足などで、高岡にはスキー選手が育たないと思われるいましたが、全国大会に出場する選手も育ってきました。

今後も皆様のご協力を得て優秀な選手の育成に努めたいと考えております。

スポーツあんぐる

先日JOCコーチ会議が、『勝つための実践栄養学』のテーマで開催されました。JOCの報告によれば近年の好成績には体作りや減量面に一定の成果があったので、オリンピックや強化合宿で食事面で協力された製薬会社の研究者や管理栄養士より研究成果や実践報告が成されました。

一、スポーツ栄養学は第一ステップ（ベシック）としていろいろな食物をたくさん食べさせる。第二ステップ（アドバンス）運動による代謝を科学的にとらえ、いつ・何を・どのくらい食べるかを

提案する。

二、現状の問題点Ⅱ高校生や代表クラスのカロリー必要摂取量四千五百〜五千に対しかなり不足し、必要栄養素も偏っている。極端な場合栄養不足に陥っている。この状態では骨格筋を消費して充分な体を形成出来ないし、ケガ・障害が多くなる。又、アミノ酸の分泌が増えたと脳に伝達されて運動機能を抑制する状態になる。特に女性の場合体重との兼ね合いで不足が目立つがバランスの良い食事をしっかりと取らせるよう注意したいとの事であった。

《行事予定》

- 4・23 評議員会
- 4・24 前田杯バレーボール・ソフトテニス中学の部
- 5・31 スポーツ講演会
- 6・12 市民体育大会総合開会式
- 6・18〜19 市民体育大会夏季大会
- 7・16〜17 県民体育大会夏季大会
- 7・31〜8・24 全国高校総合体育大会（富山県）
- 8・26〜28 北信越国民体育大会
- 9・3〜6 国民体育大会夏季大会
- 10・29〜11・3 国民体育大会秋季大会（愛知県）

《関連事業》

- 5・14 高岡スポーツコア竣工式
- 5・14〜15 同オープン記念行事
- 7・9〜10 サッカー

編集■集■後■記

昨年国体で活躍された高校三年生のそれぞれの進路をインタビューして今後の将来や夢を語っていただきました。若い人たちの希望溢れる話を聞くにつれて自分の若かりしころをふと思い出したものでした。

これからもジュニアや若い人の話題を多く取り上げて行きたいので、より多くの情報をお寄せ下さい。